

省庁名:外務省●論点3:国際展開の在り方

アジア太平洋地域において、経済協力その他の外交を進めていく上で、準天頂衛星の有用性をどのように評価するか。

検討結果

準天頂衛星は日本を通る経線に平行する「8の字」上の軌道を周回する。このため、現在日本国内での実用化が検討されているアプリケーションは、技術的には、アジア太平洋地域の一部地域（※）においても利用可能と考えられる。

外務省としては、日本政府が、各種アプリケーションの利用に関心のある地域内諸国に対し準天頂衛星システム（QZSS）の利用を提供することは、二国間関係の強化、地域協力の深化に資するのみならず、先端技術による国際協力分野における我が国のプレゼンスを高める意味においても、外交上の観点から有用であると考えられる。

（※）衛星の高仰角滞在時間は、「8の字」からの距離、準天頂衛星の機数等に依存。

判断の理由等

（1）アジア太平洋地域との協力

ア QZSSの有する機能（GPSよりも高精度な測位、SMS（ショート・メッセージ・サービス）、秘匿コード信号等）は、各種アプリケーションの利用を通じて、経済・社会の様々な側面（交通・建設・農業・漁業・公共安全・防災・気象等）において大きな利便性をもたらす可能性を有している。

かかるアプリケーションの利用に関心のある地域諸国に対し、日本政府としてQZSSの利用を提供することは、二国間関係の強化、地域協力の深化に資するのみならず、先端技術による国際協力分野における我が国のプレゼンスを高める意味においても、外交上の観点から有用であると考えられる。

イ 域内国が実際にQZSS関連アプリケーションの利用を進めることとなった場合には、当該アプリケーション関連産業の当該国への参入も期待され、我が国と当該国との経済関係の強化にも資すると考えられる。

ウ なお、QZSS関連アプリケーションの利用のために設置することが必要となる設備（測位誤差補正のための基準観測点等）については、途上国から要請のある場合には、ODA大綱等の我が国の援助政策に則り適切に検討することになる。

(2) 日米間の測位衛星分野での協力

QZSSはGPSと極めて親和性の高い信号特性を有していることから、複数の測位衛星システムが併存している現在の国際状況において、QZSSの事業化は、アジア太平洋地域におけるGPS系統システムを補強する意義もある。

(3) アジア太平洋地域における我が国の「宇宙外交」への影響

我が国が主導しているAPRSAF（アジア太平洋地域宇宙機関会議）において、我が国の提案によりQZSSを活用した共同実験や地域協力が実現できれば、APRSAFの活性化に資するのみならず、APRSAF、ひいてはアジア太平洋地域における我が国のプレゼンスの強化につながる。

（なお、中国は2008年に国際機関「アジア太平洋宇宙協力機構（APSCO）」を発足しており、また、2000年より、独自の測位衛星「北斗」を打ち上げている（計8機）。）

（了）